

令和8年度 JA佐渡「佐渡米生産者大会」資料

米穀情勢について

JA全農にいがた



1. 令和7年産主食うるち米の販売動向（全農）

（1）全国（2月末現在）

- 7年産主食うるち米の販売実績は、卸売業者や量販店が6年産米・随意契約備蓄米・外国産米を優先に販売してきたことや、7年産米の価格上昇により販売が苦戦していることから、前年および前々年を大幅に下回っています。

【7年産主食うるち米の出荷状況（全国 2月末速報値）】

（単位：千トン）

項目	7年産 a	6年産 b	5年産 c	6年産との比較		5年産との比較	
				a-b	a/b	a-c	a/c
全国	464	613	593	▲149	76%	▲129	78%

(2) 本県（2月末現在）

- コシヒカリの出荷は、量販店の年産切り替え時期が遅れたことや米価の上昇により高価格銘柄の販売が苦戦していることから、前年および前々年を下回っています。
- こしいぶきは、県内量販店を中心に出来秋当初から4,000円/5kg（税別）を下回る店頭売価となっていることや、県内大手包装米飯メーカー向けの出荷が好調のため、前年および前々年を大幅に上回っています。

【7年産主食うるち米の出荷状況（本県、2月末時点）

（単位：トン）

銘柄		出荷実績		出荷進捗		
		6年産比 a	5年産比 b	7年産 c	6年産 d	5年産 e
コシヒカリ	一般	70%	63%	23%	37%	34%
	魚沼	63%	64%	30%	43%	36%
	岩船	56%	51%	21%	42%	41%
	佐渡	75%	65%	26%	36%	39%
計		68%	62%	24%	38%	35%
新之助		88%	102%	29%	46%	40%
こしいぶき		153%	140%	29%	32%	35%
その他		75%	65%	15%	37%	39%
合 計		80%	74%	24%	38%	35%

2. 令和7年産主食うるち米の持越し見込み数量

- 10月末持越し在庫は、現在の出荷進捗（前年比78%）が今後も継続した場合、8万トンになると試算されます。
- 今後の出荷が前年並（前年比100%）に回復した場合であっても、10月末持越し在庫は6万トン程度となり、過去に例がない高水準が見込まれます。

（単位：百トン）

年産	集荷見込 a	出荷実績 （～1月末） b	出荷見込 （2～10月） c	持越し見込 （11月以降） d
7年産：想定①	1,790	350	641	800
7年産：想定②	1,790	350	831	610
6年産	1,422	460	827	135
5年産	1,650	471	1,059	120
4年産	1,742	460	1,106	176

※出荷見込（2～10月）について、想定①は前年比78%（現時点の出荷状況）、想定②は前年比100%程度でみた。

※4～6年産実績は、備蓄米（主食対応方式）を除く。

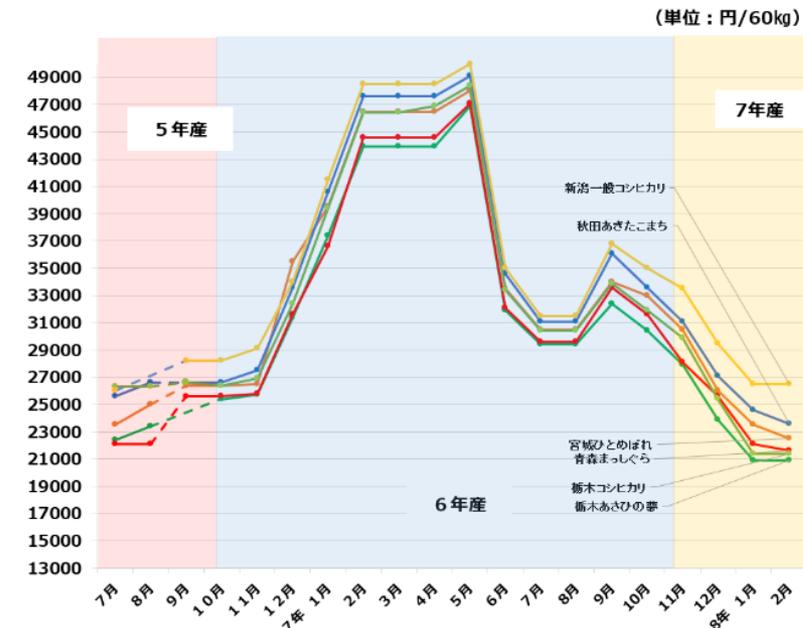
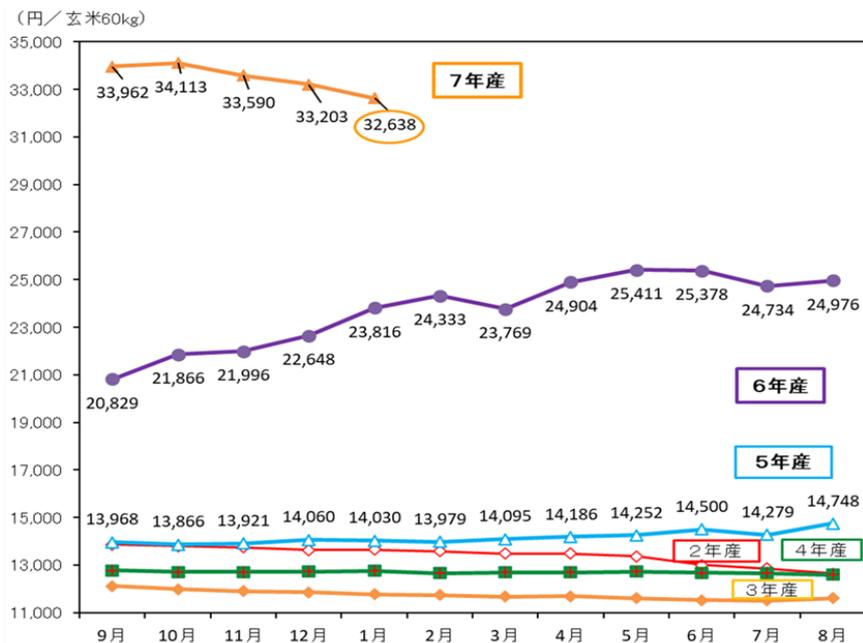
3. 令和7年産主食うるち米の価格動向

(1) 相対価格・市中価格

- 農林水産省が公表した7年産の8年1月相対販売価格（税別・包装抜換算）は、32,638円と前月と比べ▲565円となり、下落傾向が続いています。
- 7年産米市中価格は、出来秋以降下落し続けており、現在は21,000円～26,000円で取引されています。

【相対取引価格（全銘柄平均）の推移】

【5～7年産市中価格】



(備考) 農林水産省公表相対価格にもとづき作成。包装代・消費税相当額を控除した価格。

※市中価格は、関東着・大阪着、包装込。
 ※米穀市況速報の情報をもとに算出。

(2) 量販店の店頭価格

- 県内の店頭価格は、先月から値下がりしており、コシヒカリが3,680～3,980円/5kg（税別）、新之助が3,880～4,480円/5kg（税別）、こしいぶきが2,980～3,780円/5kg（税別）となっています。
特売の実施やチラシ掲載が増加しており、販売価格は概ね3,000円台が太宗を占める状況となっています。
- 県外の店頭価格は、コシヒカリが4,380～5,280円/5kg（税別）、こしいぶきが3,780～4,580円/5kg（税別）となっています。特売の実施やチラシ掲載が増加しており、銘柄米でも3,000円台半ばでの販売が広がっています。

【県内量販店の精米小売価格】

（単位：円/5kg、普通精米、税別）

銘柄	県内A店	県内B店	県内C店	県内D店
新潟コシヒカリ	3,680	3,780	3,680 (250g増量)	3,980
新潟新之助	3,880	3,980	4,480	3,880
新潟こしいぶき	2,980	3,380	3,780	3,580
新潟ゆきん子舞		3,980		
新潟つきあかり			3,580	
新潟にじのきらめき			3,680	
国内産ブレンド米	3,480	2,980	3,480	2,980
カルローズ米	2,580			

※3月上旬、県本部調べ

【県外量販店の精米小売価格】

（単位：円/5kg、普通精米、税別）

銘柄	関東A店	関東B店	関東C店	関東D店
新潟コシヒカリ	5,280	5,050	4,380	4,680
新潟新之助	4,780	4,280	4,380	
新潟こしいぶき		4,580	4,280	3,780
北海道ゆめぴりか	5,180	4,280	4,080	4,780
北海道ななつぼし	4,680	3,580	4,180	4,580
青森まっしぐら		4,780		
宮城ひとめぼれ	4,580	4,780		3,980
秋田あきたこまち	4,980	4,880	3,980	4,580
山形つや姫	5,380	5,280	4,480	5,180
山形はえぬき		3,780	3,780	4,680
千葉コシヒカリ	4,380			
国内産ブレンド	2,980		3,480	3,980

※3月上旬、県本部調べ

4. 今後の需給見通し

- 農林水産省が7年10月に公表した「今後の需給見通し」では、8年6月末民間在庫量は215～229万トン、9月6月末民間在庫量は215～245万トン（共に平成18年以降最大の在庫量）となり、約2年間続いた需給逼迫局面から需給緩和へ転じることが確実となっています。

【主食用米等の需給見通し（国の基本指針）】

（単位：万トン）

			基本指針 (7年10月)
R 7 / 8	7年6月末民間在庫量	A	155
	7年産主食用米等生産量	B	748
	政府米供給量	C	23
	供給量計	$D = A + B + C$	926
	需要量	E	697～711
R 8 / 9	8年6月末民間在庫量	$F = D - E$	215～229
	8年産主食用米等生産量	G	711
	供給量計	$H = F + G$	926～939
	需要量	I	694～711
	9年6月末民間在庫量	$J = H - I$	215～245

5. 令和8年産米集荷・販売方針

(1) 需要に応じた米づくりの推進

- 需給緩和と米価の下落を回避するため、県から市町村に示される生産目安や国・県の支援策、用途・銘柄ごとの需要動向、取引先からの購入希望数量を踏まえ、主食用米および水田活用米穀の需要に応じた生産を推進します。
- 主食用米は、パートナー卸や実需者と連携し、生産者の営農が継続できる価格の維持をはかりつつ、新潟米需要の拡大をはかります。
- 水田活用米穀は、実需者の需要に応えられるよう、県や市町村に対し産地交付金や補助事業の効果的な設定を働きかけるとともに、販売価格の引き上げを目指します。

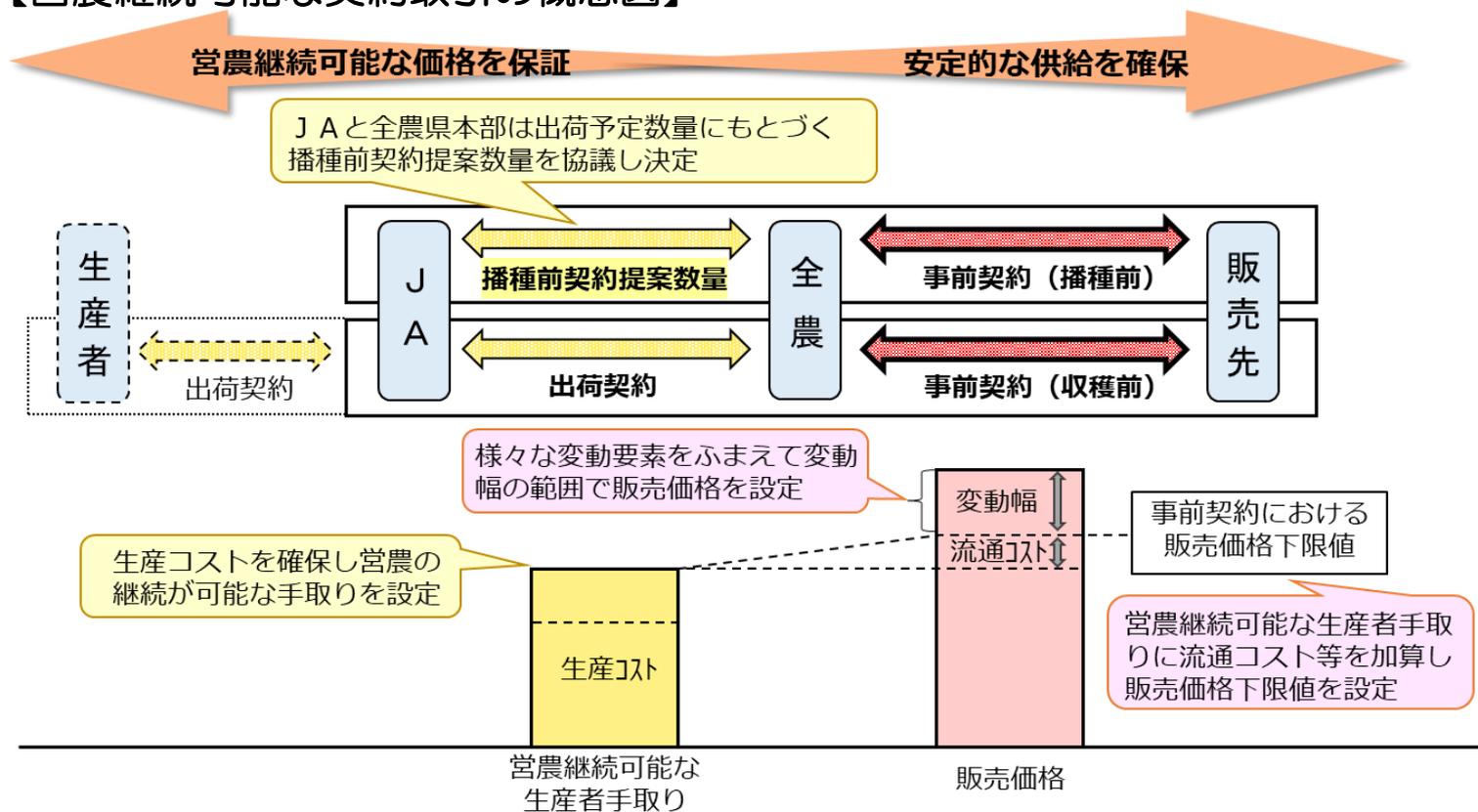
【主食用米銘柄別の考え方】

銘柄	集荷販売の考え方
コシヒカリ	需要者へ年間を通じた安定供給をはかるため、確保した需要にもとづき集荷の拡大に取り組む。
新之助	生産量の拡大にともない、販売推進を強化し需要の拡大に取り組む。
こしいぶき 他うるち米	多様な用途(家庭用・業務用・加工用)の需要に対応できる銘柄として集荷数量を拡大する。
酒米	作柄変動に対応するため、需要者の購入希望に一定のアローワンスを上乗せする。また、需要に応じた生産をすすめるため、価格の引き上げについて需要者と交渉をおこなう。
もち米	需要者との複数年契約栽培にもとづき適正生産を推進する。

(2) 営農継続可能な契約取引

- 営農継続可能な生産者手取りの確保および販売先への安定供給をはかるため、「営農継続可能な契約取引」を導入します。
- JAは、出荷契約を確実に履行するとともに、全農県本部は、販売先と販売価格の下限值を設定した事前契約を締結することにより、生産者の営農の安定と販売先への安定取引を確保します。
- なお、この契約取引は、段階的に複数年の取り組みをすすめていきます。

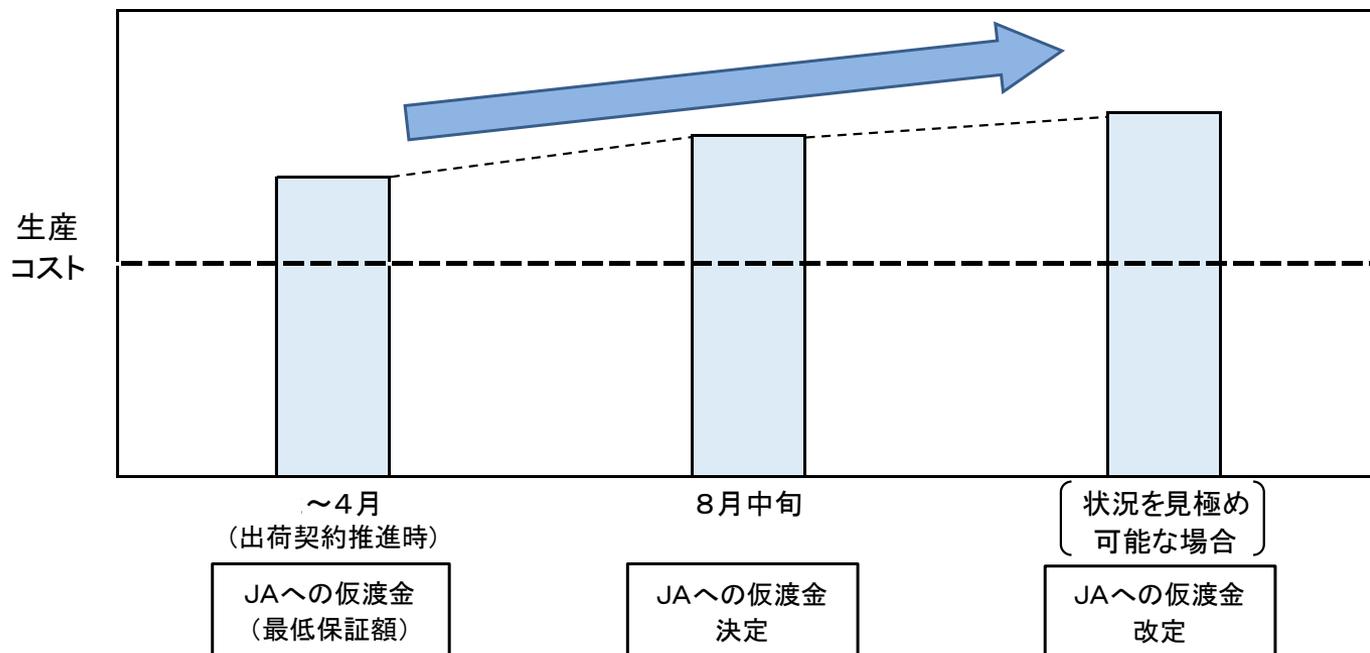
【営農継続可能な契約取引の概念図】



(3) JA・全農県本部への出荷結集（JAへの仮渡金）

- 全農県本部は、事前契約（播種前）の販売先への推進状況を踏まえ、「JAへの仮渡金（最低保証額）」をJAに提示します。
- 全農県本部は、事前契約（収穫前）の結果や需給・販売環境を踏まえ、支出可能な最大水準で「JAへの仮渡金」を設定します。
- 国の需給見通しや品質・作柄等の状況を見極め、可能と判断した場合は、速やかに仮渡金の改定（引き上げ）を実施します。

【JAへの仮渡金イメージ】



(4) 広告宣伝・実売促進

- 新潟米全体のPRについては、テレビCM等を活用しながら、よりターゲットを明確にできるデジタル広告（インターネット、SNS）へのシフトをすすめていきます。
- JA・卸業者・実需者と連携し、各種キャンペーンによる実売促進やPRイベントによる需要喚起に取り組みます。

【7年産米のプロモーション（取組事例）】



全国統一キャンペーン



消費地イベント



TVCM・WEB広告（YouTube・TVer等）



生産者・JAによる店頭販促

7年産米をJAへ出荷いただき、ありがとうございました。

8年産米も引き続き、JAグループへの出荷結集をお願いいたします。

ごはんが
おいしい
幸せを、
新潟米から。



にいがたまい
新潟米